

69 かまぶせやま  
釜臥山 (879m) ・ 70 くろもりやま  
黒森山 (420m)

地域 下北半島

2007年10月13日～14日

- [ルート] スキー場⇄釜臥山 少年自然の家⇄黒森山(周回コース)
- [参加者名] CL T.TSUSHIMA 他 13名
- [コースタイム] 【釜臥山】 13日 青森(事務所)7:20→釜臥山スキー場 9:35～9:50→望海雪楼  
10:25→七面山 10:35→アンテナ台地 11:10→釜臥山 11:35～12:25→スキー場  
13:40→早掛レイクサイドキャンプ場 14:45(泊)
- 【黒森山】 14日 キャンプ場 7:30→下北少年自然の家 8:00～8:20→黒森山  
9:20～9:30→広場 10:15～10:25→自然の家 10:55～11:50→薬研温泉  
12:20～13:50→青森 16:40

[山行記録]

【釜臥山】 天気晴気温 11° C～14° C。3台に分乗し、事務所出発 7:20。スキー場を第1リフト乗り場まで車で上がる。好天に恵まれ 9:50 出発。リフト乗り場から少し登ると望海雪楼展望台。眼下には大湊湾、芦崎湾には自衛艦が見える。湾は湖のように、微風により海面が波立つと日の光で黄金色に輝いていた。

七面山の途中で一人の男性がアンテナ線を持っていた。話によると、熊の行動を観察しているとの事。下北の自然の大きさを思う。

次第に高度が上がり、後方を振り返ると陸奥湾が広がりを見せ、眺めが良い。七面山 10:35。岩が縦、横に積重なった石祠がある。急登の低樹林を登る。紅葉にはまだ早く、この岩場と草地と低木で極小の紅葉の庭園が見られた。

巨岩が空に突き出ている岩壁を見ると、ハーケンが打ち付けられている。どの様に登攀するのかと思ひ、見つめた。ガレ場を登り、アンテナ台地 11:10。山頂 11:35。

展望を楽しみ、往路を下る。泊りは早掛レイクサイドキャンプ場、ログハウスのキャビン。

早目の夕食、焼肉パーティー。多種類のアルコール、談笑の盛上がり、時に時を忘れる。

【黒森山】天気晴気温前日と同じ位。5時半頃雨が降り、6時過ぎに止む。青空が広がり、今日も秋晴になることを確信する。自然の家 8:20 出発。杉林の中、急登、平坦を繰り返す。急登が多く感じた。立木についている小型の指導標とビニールテープが目印。9:20 頂上。下りはヒバ・ブナの樹林帯を通り、観音堂 10:05、広場 10:15、自然の家 10:55 着。

下山後、さわやかな秋晴の中、自然の家運動広場の芝生で野点を行った。

手造りの茶菓子、流儀・作法は自己流でのお茶会。抹茶、お菓子が美味しかった。

報告 K.CHIYOYA



71 がっさん  
月山 (419m) ・ 72 ひうちだけ  
燧岳 (781m)

地域 下北半島  
2009年8月1日

[ルート] 貴賓山奥の院登山道口⇄月山 登山口⇄燧ヶ岳  
[参加者名] CL M.KIKUCHI 他5名  
[コースタイム] 青森フェリー埠頭 6:00→月山登山口 8:00～8:10→246P 8:55→鳥居 9:15→  
月山山頂 9:28～9:35→登山口 10:30→下風呂いさりび公園(昼食)→  
燧ヶ岳登山口 13:20～13:25→燧ヶ岳山頂 14:10～14:20→登山口 14:50→  
下風呂いさりび公園

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

【月山】国道 338 号線で六ヶ所泊集落に入る。明神川を渡り、右に泊小学校を過ぎて進むと左手に鉄柵に囲まれたアンテナがある。アンテナ手前横に「貴賓山奥の院登山道」の木標あり、ここが登山口(路肩に駐車)

【燧岳】国道 279 号線風間浦易国間に入り、易国関川にかかる橋を渡って直ぐに左折、易国間小学校・福祉施設を過ぎて林道に入る。途中分岐に燧ヶ岳登山口方向の標識あり。さらに林道を進むと左に「燧ヶ岳登山口」の標識あり。登山口前少しの広場があり、3台位は駐車可能。

[山行記録]

【月山】青森フェリー埠頭を 6:00、M.K 車・T.O 車にて出発。宿泊のための荷物が多い。途中、曇り空から雨がポツリ、ポツリ。休憩しながら、六ヶ所泊の月山登山口に着いた頃には雨がやんでいた。初日から雨具着用での山行は避けられ、まずはほっとする。柵に囲まれたアンテナ塔横に「貴賓山奥の院登山道」と記された木柱が建っているが目立たない。路肩に車を止め、行動食・飲料持参で登山開始。杉林を進み少しの登りでよく手入れされた庭のような場所に出る。祠があり、手を合わせてから右へ進み山道へ入る。青い実をつけたテンナンショウが支柱で守られていた。

雨後で道はすべる。蒸し暑さに汗が滴り落ちてきて思いのほか苦戦、「以前登った時はもっと楽だったのに・・・」と思い、「今より若くて体力があったから？」と自問。樹林の道は枝別れしている個所があり注意しながら登る。イチヤクソウ・シャジン・クルマユリ・オカトラノオ・ウツボグサ・ノコギリソウ・トチバニンジン等花が楽しい。所々にある苔に覆われたコンクリート造りの小さな祠が信仰の山であることを思い出させてくれる。それ程の急坂でもないのにロープがかなりの長さでつけられているが古い物のように、本宮へお参りする信者のためだろう。246p・本宮へ通じる鳥居を過ぎて間もなくガレ場に出る。振り返ると集落・海岸線が見える。ガレ場から山頂はすぐ、樹林に囲まれていて展望はない。累計 460m の登りだが花が豊富で、ガレ場ではそれまでと異なる植生の花も楽しめる山です。三角点にタッチして下山開始。帰路は枝道に入って祠や岩を見ながらの下山。登りでは気付かったが、庭園のような場所にある祠の左奥はトリアシヨウマとヨツバヒヨドリ群落で見ごたえがある。登山口 10:30 着、この日一つ目の山をクリア。宿泊場所確認と昼食のために、下風呂漁港隣接のいさりび公園に向かう。

【燧岳】風間浦易国間、易国間川の橋を渡って直ぐ左折、林道を 12K 程進む。途中に「くま注意」のたて看板あり、燧ヶ岳登山口への案内もある。以前あった観光なめこ園の建物は確認できず。林道は結構しっかりしている。登山口には標柱がありわかりやすい。往復一時間足らずの山ということで、ぶな林の中の道をゆっくり花を探しながら歩く。アリドウシラン・コイチヨウランは白い小さな花、植生を調べていた M.M さんに教えていただいた。山頂はやぐらの上から辺りの景色を展望することができる。やぐらはかるうじてまだ役立っているが、木のベンチは朽ちている。灌木の中に捨てられていた山頂の標識には「大間管林署」の名があり、登山口にある同じ名の標板は外されて草むらに落ちていた。(「大間管林署」は今無いら外した?)

やぐらの上から見渡す景色は 360 度、左右に海岸線を望み・大尽山・釜臥山のアンテナがしっかり見え、北海道も見えていた。三角点確認と記念写真を撮って下山。登山口 14:50 着。下風呂まで戻り、夕餉の食料買出しの後は温泉も楽しむことができた。宿泊はいさりび公園の展望所、屋根付きで周囲三分の一程は外壁も張られている申し分がない場所風雨にはかなり、耐えられそう場所で安心。各自ツェルトを張って宿泊準備完了、展望台下で焼肉を肴に話が弾んだ。

報告 H.HARADA